

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301794		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「八山田家」		
所在地	福島県郡山市富久山町八山田字山崎11-1		
自己評価作成日	平成24年12月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	"http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do"
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初より掲げている企業理念、「心地よい空間の共有」を実践し、10年目に入った現在、利用者も職員も、「八山田家」で心地よく暮らすことが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の下に主任が置かれており、利用者のケアを中心に職員間のコミュニケーションがよくとられている。
朝一番のラジオ体操や管理者の呼びかけは、利用者の残存機能の維持に役立ち、事業所全体の心地よい一体感を醸し出している。
市の相談員や社会福祉課とも連携が密で、利用者及び事業所の問題解決も迅速に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、「つどい10の約束」を唱和し、実践できるよう啓発している。	所内に掲示してあるグループ全体の理念、「つどい10の約束」を日々のケアの中で生かすよう毎朝礼時に唱和している。職員の日勤夜勤の申し送り時にもケアの在り方を振り返り、理念に近づく努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加したり、散歩時、挨拶を交わし、野菜や果物を頂いている。	事業所の周りを散歩するときは、地域の人とも挨拶を交わし、より溶け込む努力をしている。秋の子供神輿には立ち寄り場所を提供し交流をはかっている。近くの小学校の生徒からも元気な挨拶を受けることがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事にボランティアで参加して頂き、利用者とのふれあいを通し、認知症の理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会での率直な意見を真摯に受け止め、即時、サービスの向上に反映できるように努めている。	民生委員、地域包括支援センター、市の相段員を中心に入居状況報告や相談がなされている。又、所内の行事内容も報告し、利用者の活性化と楽しさに満ちた新たな催しも模索している。	以前家族代表の出席があったが現在途切れているので、家族に働きかけ出席を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護サービス相談員を派遣して頂き、利用者や家族や市町村などへの橋渡しの役割を担っている。	市の相談員と利用者とは挨拶をはじめ、馴染みの関係が築かれている。市役所、介護サービス相談員、事業所の三者意見交換会も7年ぶりに行われた。その中には、多くの参考事例が伺われたので、毎年開催に向けて努力するつもりでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアミーティングに併せて、身体拘束についての勉強会を行い、知識向上を図っている。	教本を使つての勉強会を行い職員のアンケートや事例レポートで意識付けをしている。施錠等、利用者の安全の為にやむを得ない場合は家族とも話し合いをし、拘束をしないケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加した職員の資料を参考に、朝礼やフロアミーティングで意識向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を受けている利用者様の対応をしている。その内容を朝礼時や個別に伝え、家族には必要な情報を提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対し、ホームの情報を十分に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、意見箱の設置、面会簿に要望を書けるように要望欄を作り、ケアプラン作成に役立てている。	意見箱以外に、面会簿に備考の欄を設けて意見の記入をしてもらっている。毎月の報告書には利用者の状況を具体的に記載すると共に、意見も引き出している。面会の少ない家族には、それとなく連絡し、機会を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、ミーティングを通して、職員の意見を聞き、働く意欲が向上するようにしている。また、定期的に個人面談を実施し、各職員との対話を心掛けている。	月1回のフロアミーティングで職員の意見を聞き出している。個人面談は半年に1回行い、プライベートに及ぶ問題も話し合われている。職員の働き易さの追求と、それに伴う意識向上がケアの質の高さにも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3年以上勤務の職員について、給与の見直しを行い、やりがいのある職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップをねらい、それぞれの段階に応じて研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時は、他事業所とのコミュニケーションが図れるし、相互訪問の活動を実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に至るまで情報の把握、本人との面談により、本人の意思確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を設けて、不安点の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設利用も含めて、支援方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、尊敬して支援できるよう意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えている関係を築いている	家族へは、報告、連絡、相談を怠らないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族等との外出や外泊を希望時に行っている。	外出、外泊は数少ないが知人や家族との外食交流もある。家族同伴で馴染みの美容室に行くことがある。職員の買い物にも近くのスーパーと一緒に行って、近隣の風に触れ気分を新たにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間等を通して、他者とのコミュニケーションを図れるよう仲介し、支えあう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、いつでも来所して頂けるような雰囲気づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース検討会やケアプラン作成時の聞き取りを参考にし、本人の意思を把握している。	毎月のフロアミーティングで利用者の状態や希望を確認し合っている。面会時の家族の要望等もケアプランに反映し、利用者の意向に沿った介護を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人等の面会時を利用して、生活歴の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活ペースに合わせ支援を行うようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、かかりつけ医、看護師、介護支援専門員の意見を参考にケアプランを作成している。	2箇所協力の医療機関があり、そのうちの一つからは2週間ごとに訪問診療がなされている。利用者の状態は利用者、家族、職員、かかりつけ医、チームで話し合わせ、現状に即したケアプランが作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録を記入し、フロアミーティングでケース検討する際、全職員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お試し入居を通し、グループホームでの生活を体験していただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険課の要請により、一時保護の預かりの協力、ボランティア受入や保育園児慰問の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を充分にとり、相談や指示を仰ぎ、支援している。	かかりつけ医や2箇所の協力医療機関と密に連絡が取られている。歯科 眼科 整形外科 皮膚科の専門医の受診も、ただちに可能である。本人及び家族の希望を大切に、結果については職員全員で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、看護師が出勤している為、相談しやすい勤務体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との連絡を怠らず、経過確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	統一した方針を共有している。	本人、家族の意向に沿った形で重度化や終末期に対応できるよう、早い段階から話し合いがなされている。事業所としてできることを説明しつつチームで取り組もうとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命救急法の研修を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しているが、地域との協力体制の構築が課題。	年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署を交えて実施している。AEDの設置を検討している。防災用の備蓄についても、必要な品揃えの再考や、水、食料の賞味期限の点検、燃料の有無を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼、ミーティングにおいて、プライバシー保護について念頭において行動出来る様に周知している。	新人研修時には、プライバシーの確保と同時に接遇も含め学んでいる。朝礼時には「つどい10の約束」を唱和し、自らのケアの在り方を振り返り確認している。言葉使いも職員同士、日常的に注意啓発をおこなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定を行えるような声掛けや誘導を行っている。威圧的にならない様、意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを職員が把握をして、その人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に添えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、利用者様に手伝ってもらい、食事が楽しくなる支援をしている。	業者の供給食材により職員がアレンジしながら調理をしている。 誕生会時にはおやつ等の対応で好みを反映している。 利用者自身も、準備や片付けの手伝いをし、全員で食べ残しのないよう気を配り合っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフが側で見守り、一人ひとりの食事摂取量、水分補給量を把握し、その人に合わせて食事介助の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員が口腔ケアの見守り、介助が行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄ペースの把握を行っている。	排泄チェックシートの活用と利用者の習慣を把握してさりげない誘導に勤めている。一人ひとりの力をもとに無理のない自立支援を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時、15時の水分補給、食自前にお茶を多めに飲用して頂いている。 食事(おやつ)でも水分が多く摂れる様な献立作りをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の健康状態をしっかり把握した上で、無理強いせず楽しく雰囲気の中、入浴できるよう支援している。	家庭での日々の入浴と同じように、リラックスして楽しめるよう、一人ひとり支援している。拒否的な時にも、さりげなく誘導して健康衛生上、気分よく入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った時間帯で、午睡や入床の声掛けを行っている。午睡の無理強いはない。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬セット時には、お薬説明書を確認することで、内服薬の理解をし、配薬には声だし確認をしながらダブルチェックをして、間違いのないようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天候を見ながら、散歩や外気浴をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	かかりつけ医や家族と相談しながら、季節に合わせたドライブを出来るだけ行っている。	天候の良い日は周辺の散歩に出かけ、時間や季節の移ろいを感じて頂いている。近隣の住民と出会ったときは挨拶を交わし、馴染みの関係を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に合わせて買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	つどい開設以来掲げている理念「心地よい空間の共有」を実践し、不快感を与えないように考慮している。	廊下や居間には、利用者が力を合わせて作ったペーパークラフトがたくさん見受けられた。視界もその日の天候、季節が住宅地ながら楽しめるよう確保されている。利用者、職員共々寒い冬を暖かく、心地よく生活しているのが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホールに椅子やソファを配置して過ごしやすい空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人にとって安心するなじみの物等を家族と相談して置くことで安心して落ち着いて生活を送れるようにしている。	利用者の馴染の家具や、お気に入りの植木鉢が持ち込まれたりして、それぞれの居室が構成されていた。プライバシーにも十分配慮されている。集団であるいは個人で、時間ごとの心地よい過ごし方が支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりが設置してあるので、歩行訓練、筋力アップ運動の一役をかつている。また、毎朝の体操も行っている。		